

■ ご挨拶 ■



第 71 回日本医学放射線学会総会を開催するにあたって

第 71 回日本医学放射線学会総会を開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、昨年 3 月 11 日の東日本大震災で被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。また、今なお復興に向けて努力されている皆様におかれましては、心より敬意を表するとともに、一日も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

昨年の大会は、大震災の影響で横浜での開催が困難となり、Web 開催となりました。第 71 回総会では、2 年分の思いを込めて、できるだけ多くの先生方に横浜の地にご参集いただき、学術的な意見交換をして頂くことは勿論、全国の放射線科医の先生方と face to face の交流を深めて頂きたいと願っております。

今回の総会のメインテーマは「未来への先導－放射線診療の核心に迫り未来を展望する－」(Design the Future of Radiology)とさせて頂きました。現時点での放射線診療の核心に迫りながら、放射線医学の未来への展望を示し先導できるような大会にしたいと思っております。JRC 合同企画では、核心に迫る企画として心臓画像診断および胸部、肝臓の画像診断に関する合同シンポジウムを、未来を展望する企画としてフォトンカウンティング CT に関するシンポジウム、また合同開会式の中で New Horizons Lecture として分子イメージングの話題を取り上げました。なお、合同開会式は 4 月 13 日(金)13:00～14:30 にパシフィコ横浜会議センターメインホールで行う予定ですが、弦楽アンサンブル演奏や JRC 傘下の 3 学会会長の挨拶、基調講演、そして New Horizons Lecture など、従来とは趣を異にした華やかな雰囲気での開会式を企画していますので、是非多くの先生方の出席をお願い致します。

放射線学会総会の特別企画として、シンポジウム 5 題、ワークショップ 3 題を企画しましたが、CT における被ばく低減、画像診断による予後予測、腫瘍 PET の最新動向、体幹部定位放射線治療など、放射線診断、IVR、核医学、放射線治療の各領域におけるトピックを取り上げ、最新の知見の発表と議論をして頂くことにしました。

今回の総会では、学会の国際化に向けて第一歩を踏み出します。それを象徴する事業として、本大会では ARRS (American Roentgen Ray Society) および ESR (European Society of Radiology) との正式交流がスタートします。これを記念して、「Collaboration Session with ARRS」, 「Collaboration Session with ESR」のセッションを企画し、それぞれの学会からの派遣講師による講演の機会を設けました。従来の韓国、中国との交流を含めて、米国、ヨーロッパ、アジアとグローバルな交流が行われることとなります。また、International Session では、心臓血管画像診断に関して米国、ヨーロッパ、韓国、日本の各国の演者から最先端の発表を頂きます。

イメージインタープリテーションセッション、研修医セミナーは従来通り開催致します。研修医セミナーでは、放射線科の魅力を感じてもらうように画像診断、IVR、放射線治療に関して魅力あるプログラムを企画しましたので、各施設の臨床研修医の皆さんに参加を促して頂ければ幸いです。

一般演題は 761 演題と昨年にも増して多くの発表を頂くことになりました。プログラム編成上、一部のセッションを初日午後に設定せざるを得ませんでしたので、ご容赦下さい。

今回の総会での新しい試みとして、一般演題(口演)のスライドを英語表記して頂くことをお願いしました。これも国際化への第一歩としてご理解を賜りたく存じます。また、IT 技術の利用として My スケジュール機能を設け、ホームページ上からプログラムの閲覧・検索や予定管理ができるようにしました。さらに、学会のトピックス、注目演題を大会プレ特集(タブロイド版)として学会当日に会場で配布致しますので、ご覧になって頂ければと思います。

最後になりましたが、学会の準備作業を進めるに際してご尽力を頂いた JRC 事務局、JRS 事務局、コングレス事務局の皆様、そして陣崎雅弘実行委員長、奥田茂男プログラム委員長を始めとする教室員一同に、深く感謝致します。

第 71 回日本医学放射線学会総会 会長
慶應義塾大学医学部放射線科学教室 教授
栗林 幸夫